



ローゼンバック博物館・図書館提供

# 龍馬の国際感覚に通じる 「漂異紀略」に見る 万次郎の世界展

高知県立坂本龍馬記念館  
2013年 5月18日~7月19日

## 漂異紀略シンポジウム

# ジョン万サミットin高知 / 特集号



ミスティック・シーポート(コネチカット州)が所有するチャールズ・W・モーガン号 提供:櫻井 敬人氏

### 「漂異紀略展」開催に思う

土佐ジョン万会顧問 北代 淳二

1912年、文化人類学者でブルックリン博物館の学芸員だったスチュワート・キューリンにより、東京の古書展で偶然に発見された『漂異紀略』。キューリン本と呼ばれるこの古写本の里帰り、やっと実現した。

『漂異紀略』が高知で書かれてから今年で161年。この里帰りを一番喜んでるのは、万次郎と河田小龍に違いない。

きっかけは高知市大津の松岡家所蔵の『漂異紀略』大津本が、昨年夏に坂本龍馬記念館に寄託されたことだった。まるでキューリン本の里帰りを龍馬が促したかのような出来事だった。

これを受けて特別展、「漂異紀略」に見る万次郎の世界」を企画した龍馬記念館と、キューリン本の里帰りに協力してくれたフィラデルフィアのローゼンバック博物館・図書館に心から感謝したい。

完成した『漂異紀略』の正本は、依然として見つからない。大津本は長く正本の下書きではないかと思われていたが、キューリン本と比べてみると相違点が多く、キューリン本よりもあとで書かれたと思われるふしもある。『漂異紀略』の成立をめぐる謎はまだ数多く残されている。

『漂異紀略』についての書誌学的な研究も重要だが、それは万次郎という人物の全体像を知るための史料の一部にしか過ぎない。

グローバル時代の今、万次郎の生き方への世の関心はますます高まっている。

この際、『漂異紀略』の古写本や派生本ばかりでなく、現存する万次郎のあらゆる遺品や関連資料などを集めた「特別展 万次郎のすべて」の開催を提案したい。

まず高知で開いてから巡回展として各地を回り、アメリカでも開いたらどうだろう。万次郎を描いた青少年向けの小説が広く読まれるなど、アメリカでも受け入れの素地が出来つつある。

# 漂異紀略シンポジウム



ローゼンバック博物館・図書館提供

- 三浦 夏樹氏(司会)
- 永国 淳哉氏
- 北代 淳二氏
- 小美濃 清明氏

平成25年7月13日(日) 13:30~ 国民宿舎桂浜荘大会議室にて  
「漂異紀略シンポジウム」が大盛況(150人以上)の内に開催されました。  
4人のパネラーの方々の講演内容を記載しておきます。

## 坂本龍馬記念館 主任学芸員

### 三浦 夏樹

日本の幕末というのは、このペリーが来航して本格的にはじまる。専門的に言えば、天保年間からすでに幕末がはじまっているという研究内容もありますが、一般的にはペリー来航からと考えてよいと思います。嘉永6年(1853年)からジョン万次郎はペリー来航の1年半前に日本へ帰つて来て、そして漂異紀略が作られていくという事になります。

まずは漂異紀略の説明をさせて頂きます。藩主に献上したと考えられる完成本は行方不明で、現在見つかっている漂異紀略は写本が6種類と稿本が1種類と考えられています。それぞれ

通称名が付いておりまして、住吉本というのが別格のように扱われています。住吉本がまだ研究が進んでいない。宇高さん、河田小龍の子孫の研究によりまして、この住吉本は下書きではないか、稿本ではないか?と語られています。また、大津本も宇高さんの研究では稿本ではないかと考えられていました。

ですが、昨年7月に龍馬記念館に松岡家から大津本を寄託して頂く事になりました。そこから現在のこの漂異紀略展を開催しようとなりました。そこに北代さんからお話を頂きまして、キョーリン本をぜひ見せたいかと、この2つを中心に展示を計画していただく予定です。

大津本にあるサインを、先ほどのものと比べて見ますと、余計な物が入ってきている。このUの部分、先ほどのサインにはない。このような事を北代さんと永国さんに教えて頂きました。これはおそらく万次郎のサインではない、直筆ではないと。それまで大津本は下書きと考えられていたもので、万次郎が絵を描いた部分、そしてサインをした部分は、万次郎の直筆だろうと考えられていたのですが、これが覆る事になりました。

この大津本はおそらく下書きの写しだろうと、寄託して頂いた段階ではそう判断しておりまして、大津本が下書きと考えると、これら別の要因として、このような特別な用紙を使っていることが挙げられます。

横のこの部分に川田氏家蔵(かわだしげぞう)と書いてある。これ、小龍が使っていた用紙という事で、宇高さんが仰っていました。小龍専用の用紙だと、小龍の子孫の方が仰っているのですが、間違いがないかと思っております。この様な用紙が使われているのは、他の漂異紀略にはない。この大津本だけです。やはり少し特殊な、特別な本だと考えています。おそらく、写本だとしても小龍が深く関わって作られたものだと考えています。

それから、この大津本の特徴は、文章が他のものと違うという事があります。少し戻りますが、住吉本も穂之久爾本、貴司本、キョーリン本、これらの本はほとんど中身の文章が同じです。言い回しとか、次にくる話とか、まったく同じです。ですが、この大津本だけは文章の構成は同

じですが、言い回しがことごとく違ってきます。右側(穂之久爾本)、高知の市民図書館から漂異紀略の本が出ておりますが、これは穂之久爾本と考えられています。

ジョンハウランド号が無人島に居た時に助けてもらって、この船の中に入った直後の事です。船中が皆が食べるものと違うものを食べさせてもらえんという事、こういう文章ですが、内容は同じなんです。言い回しが全然違うのです。ことごとくこのようになる。内容は同じだが、言い回しが違う。意味としてはまったく変わらない。読めば同じ内容が取れる。大津本だけが違う文章。ですから大津本がこれから漂異紀略を研究していく上で鍵になっていくものだと考えております。

## ジョン万次郎研究者

### 永国 淳哉

大津本が松岡先生のとこにあり、貴司本が大坂にあり、平尾先生のとこに送って来て、高知新聞に送って来て、その時はコピーだったのが、最初は漫画を送ってきたとおもった。これは面白い、絵がたぐさんある。それから、大津に見に行ったら、それから後、この本を手に入れたのは、貴司さんが亡くなってそれであそこ全部、坂本昌三郎さんが、今の歴史館を買い取った時に、一緒に買い取って、今の歴史資料館に入れたという形になっている。

万次郎のスケッチが入っている。万次郎のサインが入っている。「これはジョン万のサインじゃないの?」と言ったのを覚えている。これは室津に有った絵で、こちらがジョン万が書いた絵で、こちらにサインが入っている。これがキョーリン本を讀んでみると、「寅右衛門には家族がいた」等がかかれています。私がフィラデルフィアに行き、見ている。私がキョーリン本。

絵から見ると、大津本と比べると、キョーリン本には詳しく書かれている部分がある。万次郎が乗った船ジョンハウランド号はここから水を流した。こちらには説明がなく、こちらには詳しく

説明がある。どうしてこちらには説明があるのに、どうしてか? こういう不思議さが出てきた。

古書画の重助に墓にはハラ、ベル、チャン、チョコ、パ」と書かれている。ところが、今から10年ほど前に、新しい重助の墓を、北代先生と一緒に見に行った。これは誰が作ったのか、聞いたが誰も分からない。墓の面に(1816年~1841年)とあり、5人で土佐沖を漂流し、無人島からハワイに到着した時に死んだことになっている。新しいきれいなお墓だから、誰かが作ってくれたものだ。誰が作ったか調べにいきたい。

普通のジョン万次郎漂流記は誰でも読める。全部わかれば面白くない。チラチラわかれば面白い。チラリズムだ。

## ジョン万次郎研究者

### 北代 淳二

「漂異紀略」の中に万次郎の世界を読み解くキーワードが2つある。1つは英語、もう1つはラテン語だ。

河田小龍がつけた題名の「漂異紀略」は「異(たつみ、南東)の方角に漂流した記録のあらまし」という意味だが、これを書き上げて小龍は万次郎に「万次郎さん、ひとつ英語でタイトルをつけたらどうか?」と頼んだであろう。

その結果万次郎が書いた英語のタイトルが残っている。(大津本にはないが、キョーリン本にはある)万次郎はきれいな花文字で「The Story: Five of Japanese サストリー...ファイブ オブ ジャパニーズ(5人の日本人の物語)」と書き、その下に「A Very Handsome Tais アペリーハンサム テイルズ」という副題をつけた。

(タイトルは綴りが間違っていて、犬のしっぽのテイルになっているが「お話」を意味する「tale」が正しい。)このハンサムという言葉が万次郎の心情を理解するキーワードである。



その『漂異紀略』の中で、唯、万次郎自身が自分や仲間の体験をどう思っているのかを表現したのがこの英文タイトルである。特に形容詞の「Handsomeハンサム」という言葉。これが、万次郎の心情、考え方を表す重要なキーワードと言える。英語の「ハンサム」という言葉は、辞書を見ると「男の顔立ちがよい」等、いわゆる、今でいうイケメンの意味があり日本語にもなっているが、それだけではなく、「魅力的な」「立派な」「凛々しい」等の意味がある。

万次郎が使った「ハンサム」は、もちろん「顔立ち」のことではない。万次郎はおそらく、自分達の漂流の体験、アメリカでの生活、新しいものに立ち向かっていく勇氣、あるいは難しい局面でも決してあきらめない心など、自分達の10年間の苦難の経験についての万感の思いと誇りをこの「ハンサム」という形容詞にこめたのであろう。従って万次郎がつけた英語のタイトルは「5人の日本人のあつげな物語」とでも訳すことができる。

もう一つのキーワードは『漂異紀略』の挿絵の中にさりげなく書かれている「E. PLURIBUS UNUM エ・プルリブス・ウナム」という短いラテン語だ。万次郎とラテン語のとり合わせは非常に意外で、これまでの研究では見過ごされて来た。ところが小龍が描いたジョンハウランド号の船尾に鷲が羽を広げた絵があり、くちばしにくわえたりボンにこのラテン語の文字が書かれている。絵だけでは分かりにくいので、小龍はその文字だけをとり出して縦書きにし「イブラシエナム」とカナを振っている。

おそらく万次郎に何回も発音を繰り返させながら、カナを振ったのだろう。さらにその下に「符詞ノ文字ニテ合衆国二用ユルモノヨシ」と注釈を書き加えている。「符詞」というのは「標語、モットー」のことである。万次郎は自分たちを救った捕鯨船の船尾に描かれたこの絵と言葉を正確に覚えていて、小龍に伝えたのだ。



日本語の表記では普通「エ・プルリブス・ウナム」と書かれるこの言葉はアメリカ合衆国の国章の中にあるモットーで、「多くのものから作られた1つ」という意味だ。もともと植民地の13の州がイギリスから独立してアメリカ合衆国という1つの国を作ったことを意味する言葉だが、いまでは多様な人種や文化の共生、違ったものが一緒にあって、1つの新しいものを作るといふ、いわば民主主義の理想を表す言葉になっている。現在アメリカで使われているすべての硬貨の1枚1枚にこの言葉が刻まれている。

万次郎がこのラテン語の言葉を小龍に伝えた時、その意味をどれだけ正確に理解していたかは分からないが、重要な言葉だと知っていたことは、小龍がつけた注釈を見れば明らかだ。万次郎はアメリカで暮らし、また捕鯨船の上でさまざまな人種や宗教の人たちと共に働いて、「エ・プルリブス・ウナム」が意味することを肌で感じ取っていたに違いない。

NHKの『龍馬伝』の中で龍馬が「上士や下士の区別もなく、町民も百姓も漁師も皆、仲よく暮らせる国を作りたい」という意味のことを言っていた。まさにその考えが「エ・プルリブス・ウナム」である。この言葉はアメリカの「符詞の言葉、モットー」だが、グローバル時代のいま人類共通のモットーだと言えるだろう。

『漂異紀略』を通じて万次郎が経験したこと、また思いが龍馬に伝わり、それがいまグローバル時代に生きる我々にも伝わってくる。そういう意味で、『漂異紀略』に表れた万次郎の世界は非常に新しいメッセージを発している。この言葉を1漂流民が初めて日本に伝えた文書という意味でも、それ1つだけ取っても、『漂異紀略』には大きな歴史的価値があると言えるだろう。

## 新製與地全図と龍馬の洋行

幕末史研究会 小美濃 清明

万次郎が日本へ戻ってきて、どういった影響を日

本人に与えていたのか、これが私のテーマになります。2010年だったと思いますが、『龍馬の世界認識』という本を藤原書店から出しました。この中で坂本龍馬が高知に生まれて33歳の時、京都で暗殺されるまでの中で、世界をどのように見て、どのように認識していったのか、という問題を追ってみました。

松村巖は文久2年(龍馬が脱藩した年)に高知の小高坂に生まれておりまして、歴史家としてましては龍馬に非常に近い、平尾道雄先生よりもずっと近い、という方が坂本家の隣の相良屋がこういふ事を言っていた。「龍馬は子供の頃から唐へ行きたいと言っていた。それは洋行したいとの意。」と『土佐史談』68号に書いてあります。これは大変重要で、要するに子供の頃から外国に行きたい。」と龍馬は言っていたという、隣の相良屋の証言を紹介しているのです。

これは今まで見逃されてきました。私はこれを読んで「ハッ」と思ったのですが、私の師宮地佐一郎先生は、この事を二言も書いておりませんでした。見逃したのだと思います。そしてその後、山田一郎先生が『坂本龍馬隠された肖像』の中で、川島猪三郎は西洋事情に明るく、村の人達はヨーロッパと呼んでいた。猪三郎が持っていた、弘化元年制作の世界地図が現在も川島家に大事に保管されている。龍馬はこの地図を猪三郎から見せられていたはずと書かれています。龍馬は青年期に影響を受けた川田小龍に会う前に、すでに世界地図を見ていたことになりました。

ではこの世界地図というのはどの様なものなのかと色々調べてみました。これは箕作省吾という人が弘化元年に出した『新製與地全図』という世界地図でした。これは相当売れたみたいで、家がこれだけ豊かになったという話が残っています。これは津山洋学資料館の館長から聞きました。大変、よく出来ておりまして、5大陸をきちんと書いてあります。それから南極、北極、赤道線が入っております。それと、ロシアは口とカタカナで書いてあって、ロシアが占領している地域はここであると、イはイスパニア、それからエはエグレ

スというように書いてありまして、侵略していた国々は、どこを侵略していったかという事まで、非常に正確に書かれています。

ですから、この『新製與地全図』を龍馬が見ていたという事は、さらに詳しく世界の情勢を、もう既に子供の頃から知っていたという風になると思えます。

勝海舟を斬りに行って地球儀を見せられて、「日本はこんなに小さいのか、弟子にしてくれ」というお話しがお芝居であります。あれは間違いという事になります。28歳まで世界情勢が何も分からない男だったら何もできないと思えます。

子供の頃からこれだけ詳しく世界地図を見てきて、という事が龍馬にはある訳です。そして3番目に龍馬が嘉永6年、剣術修行で江戸へ参ります。そこへペリー艦隊が入ってきます。そして土佐藩は品川に砲台を作ります。その大砲が使える若者がいないと機能しないので、江戸にいた土佐藩士を大砲が使えるように教育する。その中に龍馬も入った事で浜川砲台に龍馬が配置される事となる。そこへペリー艦隊が2度目の来航で入ってくる。

そこではじめて、地図上で知っていたアメリカの国の軍艦、アメリカ海軍が目の前へ現れてくるという経験をします。そして、ペリー艦隊が日米和親条約を結んで帰っていった後、龍馬は土佐に戻ってきた。

そこで川田小龍の家を訪ねる事になってくる訳ですが、ここが今日の一番のテーマになってくるところで、川田小龍が饅頭屋長次郎の事について、明治27・28年に頼まれた文章『藤陰略話』を書きます。そこに龍馬が嘉永7年に訪ねてきて、色んな話をしたと詳しく載っています。

そういう事で、子供の頃から世界地図を見ていた龍馬が実際に外国の船を見るといふ体験をする訳で、彼の世界認識というものは実物を見て確定していくという事になる。そして、その見た結果をどうしたらよいか、その解答を得る為に川田小龍の所に行くという事になったんだと思えます。

## 特別講演

## 海

## 山内家十九代目当主 山内 豊功氏

皆様、こんにちは。私、山内豊功でございます。今日はこのジョン万サミットで高知に於いて、お話の機会をいただきました。今日の会場、桂浜には広い海が広がっております。目には海しか入ってきません。思いは水平線を越えてはるか向こうへ行つてしまいます……。

今日の話題は海ということで、海を渡って世界へと向けられた、土佐の思想についてお話ししたいと思っております。

幕末の土佐でも、海は大きな役割を果たしました。本日のシンポジウムの主人公であるジョン万次郎は、その最たるものではないでしょうか。万次郎が偶然から大洋を漂流し、アメリカ船により救出されたこと、海を渡ったアメリカでの生活、そして、幕末という時代であったからこそ実現した祖国への帰国は、幕末日本史に大きな影響を与えたものですが、その出発点にはやはり「海」というものがありました。

これから「海」という言葉から思い浮かんだ二つのお話を致したいと思います。

幕末の「土佐藩政」で最も重きをなしたのは、15代藩主、容堂と彼が重用した参政吉田東洋であります。吉田東洋に関する評価は、大学者、大政治家という積極的なものと、反対に勤王党を弾圧した反動主義者という否定的なものが相半ばしています。しかし、東洋の残した文章をつぶさに見ていくと、また東洋の違った一面といえますか、先見の明ともいふべき深い思索と広い視野を持つていた武士であった、ということがわかってきます。その一つに、海に関する彼の考えを紹介いたします。

文久元年（1861）9月8日付で、容堂に宛てた書状の中で、東洋は次のようなことを言っています。

- ① 蒸気船を購入すべき
- ② 有志の者20〜30人を買って江戸に行かせるべき
- ③ 江戸にいるジョン万次郎などを頼って操舵訓練をうけさせるべき
- ④ 南洋にある無人島を6〜7ほど入手すべき



講演中の山内豊功氏

このように、南洋の無人島に進出するという、当時としては、常識を逸するようなスケールの大きな見方を示しています。しかも、これらの動きを実現することによって

「人材教育」の道が実現するといいい、政策の根底に人材育成があることを重視していることも注目されます。

この考えは容堂にも大きな影響を与えたようである。慶応2年（1866）8月25日付けの伊達宗城宛の容堂書状には「この節、僕いささか志これあり、唯今策略中に御座せうろう」として、次のようなことを記しています。

- ① 航海術が重要である。
- ② 航海局を設置して、自分が大将となる
- ③ 産物を積ませて地球中を意の如く「飛行」する
- ④ 火船（蒸気船）を10艘ばかり入手する

容堂の「志」「策略」とは、航海局に蒸気船10艘以上揃えて、自らが大将になり世界を相手に貿易をするという壮大なものであります。この基本線は先に紹介した吉田東洋の主張とほぼ重なるものであります。

これと並行して容堂は、保守派の反対を押し切つて「開成館」を設置し、殖産政策を展開しますが、この開成館では様々な教育、つまり人材育成が行われ、これもまた東洋が重視したものでした。

このように、東洋と容堂は大海へこぎ出し、世界を相手に貿易をするという理想、大望を持っていました。

そして、容堂が設置した開成館が輩出したのが岩崎弥太郎であり、彼は世界的視野を持ち貿易立国を模索し、三菱の基礎を築いたことはご存じの通りであります。

ジョン万から河田小龍、そして坂本龍馬という開明思想の流れはよく知られていますが、一方で、東洋・容堂という政治家たちの開明思想の流れもあり、幕末政治に少なからず影響を与えていたのであります。

これは、偶然といえは偶然、時代性といえは時代性であります。しかし、太平洋に臨み海とともに生きてきた土佐という地理的特色が醸し出した思想が、幕末という時代に二挙に鮮明化したのではないかと、私は思っています。

これまで述べてきたように、土佐藩は西南雄藩の一つとして、いわゆる開明主義を藩是として、海外の新知識の吸収を積極的に行いました。その政策の一つが留学生の海外派遣です。

土佐藩派遣の留学生第1号は、立志社の第二代社長、土陽新聞社長、衆議院議員もつとめた山田平左衛門の叔父山田馬次郎です。

彼は、長期に亘り江戸で英語を学び、万次郎を訪ねることも数回に及んだといわれています。

万延元年（1860）に、幕府は日米修好通商条約の批准のために使節団を渡米させますが、その際に、留学生14人も同行し、その一人が土佐藩士山田馬次郎でした。

万延元年1月に出帆、ハワイを経て3月にサンフランシスコに到着、ワシントンで条約批准を終えて、ボルチモアやフィラデルフィアなどを見学、ジャワ、香港を経て、帰国したのは9月でした。

残念ながら、山田は帰国後2年して32才で死去したため、海外で見聞した新知識は本格的に活かされることはなかったのですが、その後、土佐藩は独自に留学生を派遣して、海外事情の把握に努めました。

例えば、慶応2年には佐川出身で藩校致道館の得業生・結城幸安や藩士大庭源次兵衛をいずれもイギリスへ留学させています。

また、いわゆる官費留学に対して、密航による渡航も確認できます。

珍しい事例としては、土佐勤王党員で吉田東洋を暗殺した大石団蔵は、脱藩した後に薩摩へ移動し、薩摩からイギリスへ密航しています。

彼は、イギリスで数学や測量学を学び、帰国後は第七高等学校造士館の算数教師を務めました。

土佐だけではなく、薩摩や長州、肥前といったいわゆる西南雄藩からは様々な形で留学生が渡航していますが、少なくとも土佐の場合、これを単なる時代性の問題として片付けるのではなく、土佐という地理的特色、あるいはそこで育まれた風土も視野に入れながら考える必要があるのかもしれない。

土佐からの留学は明治になってからも継続し、明治元年（1868）年には、元海援隊士菅野



覚兵衛がアメリカへ、明治4年(1871)には元土佐藩家老・福岡家の福岡守人と宿毛土居の家老・安東家の伊賀陽太郎がイギリスへ留学しています。

彼らは、福沢諭吉が主宰する慶応義塾に学んで、ともに学んでいた馬場辰猪や国澤新九郎たちが留学するのをみて、是非にと藩当局にかけあつて留学の念願を果たしたといひます。帰国後、伊賀は橋本大学教授、馬場は自由民権家思想家として大成、国澤は洋画家として名をのこしたことはよく知られています。

このように、幕末・明治の土佐を見ると、海を渡り世界をみた土佐人がいかに多いことか、そして、彼らが近代日本に与えた影響がいかに大きなものであつたかがわかります。

海をキーワードにした2番目の話題は、東洋や容堂たちが果たせなかつた海に乗り出すという留学の話でありました。国際化の時代、私たちは幕末の土佐を国際的視点から振り返る必要があるのかも知れません。

先に紹介した、イギリス留学生福岡守人は、渡英後1年でロンドンにて死去しています。21才でした。ロンドンの墓石は一緒に留学した伊賀が建てたといわれていますが、墓碑には英語で次のように刻まれています。

「日本土佐出身で福岡建三の最愛の息子、1873年3月3日ロンドンに死す。21才。学殖深い道徳観を有し、慎ましく上品で、礼儀正しい中にも優雅さを愛し、信仰における真実を熱心に探し求めた。幸福なるかな、心の清き者、その人は神をみんなマタイ伝」

このように、留学先で客死した若者もそれなりにいるのでありますが、鹿兒島や佐賀では彼らの研究や顕彰が盛んに行なわれております。

この7月に、ロンドンに福岡守人の記念碑が建てられ、除幕式が行なわれると聞いております。福岡家のご子孫が参加されるようですが、このような情報が土佐でもとりあげられるといいと思います。

土佐でも永国先生をはじめ、土佐と海外の関係を調査されている方々が研究の基礎を作られて

ております。今後、更に深化させた研究の進展を期待いたします。

今回のシンポジウムが、そのような意味でも大きな契機になるように祈念いたします。

最後にもう一つ、補足的に申し上げます。

土佐からは明治の中期以降、南米・カリフォルニア・カナダ・南洋へといわゆる移民が多く渡航しています。移民研究は土佐近代史のこの大きなテーマだと聞いておりますが、移民の理由を経済面だけで考えるのではなく、土佐人の、海と外国への思いという点からも検討されても良いのではないかと思います。

今日は、土佐史を考えるにあたって、全時代を通して「海」という言葉が重要ではないかというお話を申し上げます。

ご清聴ありがとうございます。

## あのペリーさんが やつて来た!

マシュー・C・ペリー氏  
(ペリー提督の子孫/5代目)



笑顔で挨拶するペリー氏、通訳の櫻井氏

## MEETING MANJIRO ENTHUSIASTS IN KOCHI by Matthew C. Perry

Sometimes things just work out perfectly!! My trip to Japan in July 2013 was mainly planned to participate in the Shimane Prefecture Grassroots Summit sponsored by the John ManjiroWhitfield Commemorative Center for International Exchange, based in Tokyo. The meetings took place in Matsue City, where I also had my exciting homestay.

Months before my trip I had received an invitation from Dr. Joel Joos inviting me to the University of Kochi to give a lecture on Commodore Perry.

It sounded exciting so with some manipulation of my travel schedule I added Kochi to my trip as a destination. I had learned previous to my trip from Hiroko Todoroki that the Manjiro Societies in Kochi Prefecture and other areas would be coincidentally meeting in Kochi during my visit and members were invited to my lecture.

We then visited the Ryoma Sakamoto Museum, where the Manjiro Society was having their meeting. I was introduced to the members and was happy to say a few words of greeting and appreciation for the opportunity to meet so many Manjiro Society members.

Overall the visit to Kochi was outstanding and a real pleasure to be able to give a lecture on Commodore Perry in a university setting to so many outstanding students of Japanese history that are members of the university community and the Manjiro Society.

## 高知の万次郎愛好家に出会う マシュー・C・ペリー氏(ペリー提督の子孫:5代目)

時々全ての物事が完璧にうまくいくことがある!! 2013年7月の日本への旅は主に、東京に本部のあるジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター主催の「島根県草の根サミット」へ参加する予定で組まれていました。サミットは島根県松江市にて開催され、またそこで、私はとても素敵なホームステイも経験しました。

そして、出発の数ヶ月前、ジョエル・ジョー博士から、高知県立大学生の学生向けにペリー提督の講義をして貰いたいとの申し出を受けました。その申し出にとっても気持ちが昂ぶりました。それから、スケジュールの調整をして、旅の目的地として「高知県」を付け加えました。

また偶然にも、高知の滞在期間中に、高知県や他の地域から来るジョン万次郎協会の会議が高知で開催されるとの事を轟木ひろ子さんから聞き、協会の方々も講義へご招待されることになりました。

それから私たちは、ジョン万次郎協会の会議が行われている、坂本龍馬記念館へ行きました。

そこでたくさんの方々に紹介されて、またお会いできたことに対して、感謝の気持ちを述べられたことを本当に嬉しく思います。

総じて、高知での滞在はとて素晴らしいものでした。ペリー提督の講義を大学で行うことができ、また、ジョン万次郎協会や大学の関係者の方々がとても喜んでくださって、とても光栄でした。



Fujita Nagakuni, Matthew Perry, and Junji Kitada at launching of book in New Bedford, MA, November 14, 2003



## 全国のジョン万次郎関係者・関係団体による ジョン万サミットin高知の報告

平成25年 7月13日 17:00～ 於 桂浜荘

動と事業が社会的に更に必要なものと認められたことに一層の力を得て、以前にも増して皆様のお役に立つ活動を進めて行きたいと覚悟を新たにしています。

最後にお伝えしておきたいことは、私どもの活動の中心にはいつもジョン万次郎とホイットフィールド船長との深い人と人とのつながりがあるということだ。

170年余にわたって続いているこのつながりを現代の日米の市民交流にも再現することを何よりも大切にしています。皆さまのご理解とご協力と、何よりも『第24回日米草の根交流サミット サンディエゴ・ティファナ大会』への参加をお願い申し上げます。

### 「ホイットフィールド・万次郎 友好記念館」協力の会

理事 北代淳二

この会は万次郎がお世話になったホイットフィールド船長の家を、日本で行った募金により修復し、2009年に「フレンドシップ・ハウス」としてフェアヘブーンに寄贈した。

その後日米草の根友好発祥の場所としてここを訪れる人たちが年々増えているが、財政難が続いており、日野原重明理事長を中心に、現地の運営団体を支援する活動を続けている。

ジョン万次郎は非常に不思議な力を持っていると思う。こうして沖縄から東京から日本各地よりお集まりいただいたことは、万次郎が人と人を結びつける力を感じるからである。この力で我々がここに結ばれている。ますます来年も皆さんの報告などにぎわった第3回サミットが出ることを期待している。

### 沖縄ジョン万次郎会

事務局長 名嘉真 和彦

沖縄ジョン万次郎会事務局長の名嘉真和彦で

ございます。

本日は会長の大城光盛が所用で出席出来ませんの変わって事務局の私が活動報告いたします。5月開催予定でした定期総会終了後に勉強会を開催する事になり6月の開催になりました。当会の結成20周年記念式典に出席くださいました池道之助の五代目鈴木典子さんを講演を依頼しました。

当初は会員だけの勉強会の予定でしたが、土佐清水市から先生をお招きしていますので新聞の声を蘭を活用しました。広くジョン万次郎ファンに呼び掛けましたところ80人の聴衆が集まりました。次に後援事業が先週の7日が開催されました。ジョン万次郎の歌新曲発表会です、2年前に講演会のアトラクションでお招きした、歌手の三田りょうさんが豊見城市にきたご縁でつくった曲をCD化しました。新曲発表会は豊見城市より発信します、要望の賛同して後援いたしました。4月頃ジョン万くじらに発信しましたが、どなたも反応がございませんでしたので今日は押し売りに持つてきましたので帰りにお願いたします。

次に沖縄県対米請求権事業協会より昨年に続き「地域活性化助成」を受けました。その助成金を活用致しまして①ジョン万次郎の宿道を辿るツアー②8月3日に開催いたします。これは参加者の募集をはじめております。③第8回沖縄ジョン万次郎会講演会

演題「ジョン万次郎から学ぶもの」  
強い信念にもとづく「バイオニア精神」  
講師／今永一成氏(ジョン万次郎子孫、医学博士、福岡大学名誉教授)

日時／平成25年9月29日(日)午後4時  
※11月にはジョン万忌に参加の予定です。

毎年3月末に土佐清水市の少年野球チームと教育長杯ジョン万カップ少年野球交流大会を後援しております。優勝チームと準優勝チームにメダルを贈っております。

来年のサミットはジョン万祭りの土佐清水市で

行われるとおもいますが、その次のサミット沖縄で開催を役員に提案したいと思っております。又来年報告いたします。

### ジョン万次郎・江東の会

事務局長 幅泰治

ジョン万次郎が土佐をはじめ、沖縄や江戸から多くの人々を呼び集める。昨年(2012)は「ジョン万まつり」もかねてフェアヘブーンからも、今年(2013)は高知「龍馬記念館」にアメリカにある「漂異紀畧」のキョーリン本が里帰りした。そこに多くの人々が集い、新たな知見と交流が広がる。楽しくうれいことだ。

各地に万次郎フリークは多いが、万次郎が土佐藩下屋敷に住まった(明治2、13年)ことから、「ジョン万次郎・江東の会」が2010年に発足。勉強会の成果を記録し報告書にしている。各界の先生方のお話や会員の研究を含め、本年までに3集をまとめた(会員用非売品)その主なものに、北代淳二氏からは、「漂異紀畧」に見る「PLURIBUS UNUM」も多くからできた「(アメリカの国旗に白頭鷲がくわえるリボンのラテン語を万次郎が伝えたこと。

谷昭佳氏からは、咸臨丸で持ち帰ったカメラで江川邸の来客を撮った写真類が重要文化財になったこと。  
川澄哲夫氏からは、ジョンハウランド号に万次郎と乗り合わせた「ライマンホームズの航海日誌」で通説とは違った状況が見えてきたこと。  
塚本宏氏からは、長男「中浜東一郎日記」から万次郎の終焉の地が東京・銀座二丁目の目抜きであったことが確定できたことなど、多くの発見があった。

また、11月12日の「万次郎忌」や万次郎を勉強する子どもたちへの支援授業、江東区での講座など、多くの成果があがっていると思う。このサミットでお世話になったことや多くの人々との交流を大切に行きたいと思う。

感謝!

### 公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念 国際草の根交流センター

評議員 平田潔

国際草の根交流センター「これが当財団の正式名称です。まずご報告することは、2013年7月2日から8日までの7日間にわたって『第23回日米草の根交流サミット』を島根県で実施しました。開会式は出雲大社のご好意で仮拝殿を使わせて頂き、閉会式は島根イングリッシュガーデンで共に盛大に行われました。

アメリカから参加された約1000名の皆さまは各地の分科会を十分に堪能され、盛況のうちに帰国されました。一部の方々はその後のおブシヨナルツアーに参加されました。

次にご報告することは、当財団は公益財団法人の認定を頂きました。私どもの20有余年の活



# ジョンマンとホイットフィールドとついでそのついでの出会

上野 喜與之

今年の春より土佐ジョンマン会でお世話になっている大阪のジョンマン14歳(メンタルエイジ、ジョンマンが遭難した歳)です。入会させて頂いて大変嬉しく思っています。

大阪ジョンマンの会(残念ながら10年ほど前に解散になった)のメンバーであった時、そんなにもアメリカでジョンマンの人気があると想像していなかったのが行ってみて、日本よりフェアヘープンでニューベッドフォードでアメリカでこんなに皆さんから好かれて尊敬されて人気があると知ってからです。

昨年の秋のジョンマンフェスティバルでは土佐清水市を訪れ、ジョンマンの生家、資料館を見分、これでジョンマンの足跡を訪ねるのも最後かと思っ

ていました。  
帰阪した翌月の11月6日の朝日新聞で、ジョンマン資料館の裏にあるあしずり港に停泊、係留しフェスティバルに協賛参加していた大阪市所有の帆船「あこがれ」が廃船になる記事を見て、何とかこの帆船を土佐清水市に譲ってもらい、2年に1回開かれるフェアヘープンでのジョンマンフェスティバルに皆で航海することで第2、第3のジョンマンホイットフィールド船長を育てることが出来たらな一と思いいプロジェクトを立ち上げた次第です。

幸いにもこの7月末に帆船「あこがれ」は日本に残ることとなり、この事業の実現可能な方向へ進んでいると夢をふくらませている次第です。

どんな苦難の時も前向きに生きたジョンマンの心意気とそれを側面から支援したホイットフィールド船長の思いやり、そんな彼らの強いリレーション、フレンドシップ(勇氣・思想・先見性・使命感)に感銘するものが多くあります。この事実は歴史のページの上に止めておくだけでなく、今我々が多く困難に直面している時代にあつて学ばなければならぬ重要な教訓であります。

2人を顕彰し後世に伝えていかなければなりません。このことは土佐清水市とフェアヘープン、ひいては日米間の強い絆を造り、友好の増進、国際親善に役立てる人財を育てることが出来ると思

じております。また、高知をアメリカに世界中にPR出来るチャンスでもあると思います。  
アメリカ人は他国の人にも(Greatman (Bigman)) に対しては分け隔てなく絶大な賞賛を送るからい

があります。我々もホイットフィールド船長にもっとも大きな賞賛を送りたいものです。ジョンマン資料館のネーミングもジョンマンホイットフィールドミュージアムであつてほしいものです。  
私は(1937年)大阪の河内生まれです。いつまでも14歳で生きたいものです。(1954~55年)にかけた1年ほど中土佐町久礼に住んで須崎高校に通つたことがあります。また皆さんに会えるのを楽しみにしています。

I love John Mung, Whitfield.

イ・ジョンウ、高知 and フェアヘープン

帆船「あこがれ」



# チャールズ・W・モーガン号の大修理、ニューベッドフォードへの里帰り帆走

太地町歴史資料室学芸員 櫻井 敬人

モーガン号は、ニューベッドフォードのヒルマン造船所で二八四年に建造された。同所で二八三〇年に建造されたジョンハウランド号より数十センチ大きい。万次郎さんは、日本を離れていたおよそ十年間のうち、六年間を二隻の捕鯨船上で過ごし、三年間をアメリカ捕鯨産業の中心地であるニューベッドフォード周辺で過ごした。万次郎さんのアメリカにおける経験を知らなければならず、そのためにモーガン号ほど貴重な歴史遺産は他にない。

そのモーガン号が、二〇〇八年秋から始まった過去最大規模の修理を間もなく終える。去る七月二日に行われた大仰な進水式の様子を見れば、いかにアメリカがモーガン号を大切にしているかが分かる。モーガン号はニューロンドン港に移動して種々の装備を施され、来夏夏に母港ニューベッドフォードへ二時里帰ります。しかも帆走してくるといふモーガン号をもう一度海に浮かべるために、どれだけの資金と労力が費やされたことか!

ニューベッドフォードではモーガン号を迎える準備を進めており、日本からの参加者を歓迎するという。モーガン号は他にもニューポートなどいくつかの港に入る予定で、独立記念日にボストンへやってくるのではないかと私は予想している。

万次郎さんがフランクリン号副船長になつたかどうかはともかく、船打ち役を任せられたということは、彼が真に優れたヤンキー・ホエラーであったことを裏付けている。

ヤンキー・ホエラーとはどんな男たちであつたかを考える上で参考になるのが、モーガン号進水式におけるミスティック・シーポート理事長の簡潔なあいさつである。モーガン号はアメリカの海洋経験の集大成であり、アメリカが理想とする

価値観、すなわち自由、自立、勇氣、そして自己責任を体現しているという。

# 映画「Manjiro」について

(株)ドリームワンフィルム 佐藤 ヒデアキ

全国のジョン万関係者にご挨拶させて頂いたければと思ひ出席させて頂きました。去年の11月に北代さんご紹介で、弊社で長年進めてきた映画企画「Manjiro」を進めて行くうえで、ご挨拶とご協力をお願いに、土佐ジョン万会や関係者に会いに行く事を進められ高知に行つたのがジョン万会とご縁の始まりでした。

昨年末、ジョン万映画のHPを立ち上げの際には、全国のジョン万関係団体の何人かの方々には電話で協力をお願いしたりで、電話では話しても直接お会いする機会がなかつたので直接お目にかかれればというのが参加させていただいた主旨です。

高知に行つたことが縁となり、脚本を読んでもくれた土佐ジョン万会の方々には、脚本を単行本として出版してみたいという提案をしていただきました。



今年2月に単行本が出版されたことで、東京の映画業界の関係者の間で話題になり、ジョン万映画企画が業界に認知されたことは、この映画企画を進めて行くうえで大きなプラスになりました。

実現するとかかなりの大作になりますが、実現に向けて奔走してみたいと思つています。引き続き、ジョン万関連団体のご協力と応援をお願いできればと思つております。宜しくお願い致します。

## ジョン万次郎上陸地記念碑 建立活動状況について

建立期成会 和田 達雄

本年7月糸満市建立プロジェクトチームに沖縄県の農林水産部より報告を受けるが、部長の認識不足と手違いで訂正の連絡があり、昨年の台風17号により建立場所の崖が崩れ、早急の護岸工事を糸満市より要請している事は昨年には期成会も知っていた。

今回の報告では、すでに予算が通り平成25年度9月より工事が実施されるとの事であった。

問題点が発生している事が判明する。護岸工事高さ3.6メートル、長さ100メートルはよきとして、同時に敷地内に植樹を数百本を行う図面も出来ており、その範囲内に希望していた建立場所が入っており、南部建設事務所の責任者よりも連絡があり、心配されていたとの報告もある。

40年以上、いやそれ以上の間は、保安林として園地としての書類上の形で法律で2種の領域になつておりますが、雑草と無名の木が繁殖しているだけの場所であった。

今回の工事をきっかけに植樹すると…

指定範囲外であればよかつたが、60坪の建立場所を確保して要請をしておりましたが、当面は触れない状況と立場になっております。しかしながら、範囲以外に15坪までなら建立できる場所があります。

糸満市の土地所有の場所ではありませんが、戦跡国定公園内でもあり沖縄県の保安林法やら園地自然保護区として指定されておりますので、法の解除と建立許可が大変難しい立場ではありません。

現在は何とか交渉して60坪の確保に全力を挙げて協力が願えればと思っております。

この件が解決し建立許可が出れば、皆様との協力にて全国への建立募金活動も出来ます。期成会としての活動も建立許可が出る事が先決問題として行動に走りましたが、今回の護岸工事実施の報告を知る事により、次なる作戦と交渉に入ります。

建立場所としては「こしかない」という場所です。敷地が確保できれば少し離れても良い場所もあります。内田会長は昨年現地を確認されておりますので理解できると思います。沖縄県も糸満市もやる気満々ですので、今一步の所まで来ているので頑張ります。

いつまで時間をかけているのだらうと、心配をされていると思いますが、難しい事は知つてのチャレンジですので、見守つて下さいませ！

追つて連絡を申し上げて参ります。今後ともご支援ご協力の程を賜りますようお願いを申し上げます。

## 一力先生書

永国 淳哉

この程本会が、山本一力先生に「書お願いしたところ、「土佐人気質」と書いて頂いた。

「一力先生は、万次郎の「土佐人気質」を琉球上陸時のポर्टゥガドベンチャラー号の話から始めています。自然の中を生き抜いていく人間の自立、そうした人間の度量のこと。それを万次郎（土佐人）のような気質と、言っています。」

理屈が多く慎重な利口な方たちより「やろう、やつてみようよ、という人の方が、実際に実現させてゆく、物作りをしていく。」そうした常に前向きな万次郎のような「頼もしさ」のある人間を、「一力先生は「土佐人」といつている…」と、土佐酒に酔つた「土佐人の私は、いい気持ちで喋っていた。

## 編集後記

土佐ジョン万会 会長 内田 泰史

平成25年7月13日（土）、桂浜にある「桂浜荘」にて「土佐ジョン万会総会」「漂異紀略シンポジウム」「ジョン万サミット」高知」とジョン万次郎に関する3つのイベントが開催されました。

「漂異紀略シンポジウム」には、150名を超える人達が集まり、大いに盛り上がりました。改めて「ジョン万次郎」の魅力を確認することができました。

また、「ジョン万サミット」高知」では、全国の「ジョン万次郎」関係者の皆様に活動報告をして頂き、その後の懇親会もあり、大変有意義な情報交換と懇親が出来ましたことを嬉しく思います。

最後に、今回の件で「ジョン万次郎」に関係する多くの皆様に「協力」ご尽力頂き、誠にありがとうございました。今後も機会を頂き、大河ドラマ化100万人署名の成功や沖縄上陸記念碑の建立につなげていければと思います。

「ジョン万次郎」のことを一人でも多くの人に知ってもらえたらと考えております。



山本 一力氏 色紙



土佐ジョン万会 事務局  
〒780-0952 高知市塚ノ原37  
Tel.088-843-6007  
Fax.088-854-3151  
e-mail:tosa@johnmung.org  
http://johnmung.org